

国民の35.9%がアレルギー

新年明けましておめでとうございます。昨年の暮れは診察とインフルエンザ予防接種で混雑し、大変ご迷惑をおかけしました。特に思うように診察の順番が取れずにご不満があったと思いますが、できるだけ皆様のご希望に添えるようにスタッフ一同努力してまいりますので、今年もよろしくお願いたします。

さて、厚生労働省の「平成 15 年保健福祉動向調査の概要」によりますと、**国民の35.9%が何らかのアレルギー症状**を持っているということです。

症状別では、
皮膚アレルギーが 16.4%、
呼吸器アレルギーが 7.5%、
目鼻アレルギーが 22.6% です。

年齢別では、
0~4 歳で 37.3%、
5~9 歳と 10~14 歳でいずれも 42.7%、
以後 15 歳以上でも 30%以上

となっています。アレルギーが国民病と言われるゆえんです。

アレルギー疾患には、アトピー性皮膚炎、じん麻疹、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎がありますが、特に小児のアトピー性皮膚炎は食物アレルギーを無視するわけにはいきません。乳児のアトピーの原因はほとんど食物と思っています。卵、牛乳、小麦の順で多いです。

乳児期に食物アレルギーが多いのは、

- ① 消化吸収能力がまだ未熟であり、
- ② 腸粘膜での免疫に欠かせない免疫グロブリン A (IgA 抗体) が少ないためです。

但し、2 歳ころから大人のレベルに近づき、3 歳の頃には 6 割の食物アレルギーの子が食べられるようになります。そして小学校入学までに 9 割の患児が食べられるように

なるのです。ほとんどの場合、除去食療法は乳幼児期だけなので、親御さんにはしばらく頑張ってもらいたいものです。

一昨年から偽装問題など「**食の安全**」について考えさせられる事が多々ありました。小麦アレルギーが増えてきたのは、小麦の 9 割が外国からの輸入のため、輸送中のカビや害虫を駆除するための残留農薬が一層小麦アレルギーを助長させるのです。
(アジュバント効果)

その線でいくと、鶏や乳牛のえさも問題となります。防腐剤や抗菌剤がたっぷり入った飼料、防虫剤のかかった牧草など疑えば切りがありません。我々は、普段何気なく汚染された卵や乳製品を食べさせられているのかも知れません。そして子ども達に影響が大となります。

消費者がもっと賢くなり、生産者が見えるシステム作りこそが、アレルギー疾患を予防する最前線的手段だと思います。今年にはできるだけ確かな物（安全が保障されている物）を口にしていきたいものです。

(たまなほ)

